

特集

“川崎ふるさとの小径”を歩いて 東生田自然遊歩道

記録的な暑さとなった今年の夏を乗り越え、お散歩に適したさわやかな季節がやってきました。

今回ご紹介するのは、野鳥と古寺を訪ねる「東生田自然遊歩道」。読売ランド前駅から向ヶ丘遊園駅までの約6.5キロ、4～5時間のコースです。NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』にも登場した稲毛三郎重成ゆかりの地も含まれている、多摩丘陵のアップダウンがある道のり。一日で歩き切るのではなく、何日かに分けて、じっくり散策するのもよいかもしれません。

軽く準備運動をして、さあ、出発！

— 徒歩ルート — 道標 絵かんばん 休憩所・手洗所

1 八角堂跡（寺尾台第2公園）



寺尾台廃堂跡は、昭和26・27・43年の3年にわたって発掘調査されました。

この八角堂基壇は、発掘調査の成果をもとにして、復元されました。基壇の平面の形が直径9メートルの八角形であることから、建物も小型の八角堂で、その建立の時期は、屋根を葺いた瓦の年代から、平安時代初期（9世紀前後）と推定されます。



「どちらかな？」と迷いそうな場所には、このように案内板が設置されています。

2 土淵不動院



本堂右側の閻魔堂には、口角が上がった、なんだか楽しそうな閻魔大王がお座りになっています。

3 生田配水池と展望スペース

高台に位置する生田配水池からは、ポンプ等を使わずに自然流下方式で市内に飲み水を供給しています。



展望スペースもあり、東京スカイツリー、新宿副都心やサンシャイン60まで広大な景色を見渡しながらほっと一休み。夜景スポットとしてもおすすめです。生田配水池までは、218段の階段と、なだらかな上り坂と、2通りの行き方があります。健脚自慢はぜひ階段で！



4 稲毛山廣福寺



廣福寺は、枳形城主・稲毛三郎重成の館跡といわれており、門には「稲毛領主菩提寺 稲毛館跡」と書かれた扁額（へんがく）が懸けられています。本堂は350年前、江戸時代前期の建物です。愛妻家として知られる重成公。大河ドラマ『鎌倉殿の13人』でも、妻（北條政子の妹）の三回忌供養で相模川に橋を架け、橋供養を執り行う場面がありました。観音堂の裏には、重成の墓といわれる五輪塔と妻の墓が並んで伝えられています。

5 天神社



古く『江戸名所図会(すえ)』には韋駄天社と記されています。足の速い神として知られる韋駄天。箱根駅伝出場チームが祈願に訪れることもあるそうです。

8 長者穴横穴古墳群



飯室山の北麓に築かれた横穴墓群は、『新編武蔵風土記稿』にも「長者の穴」として紹介されており、古くから人々に知られていました。川崎市教育委員会が実施した発掘調査の結果、多摩丘陵の基盤層である飯室層と呼ばれる比較的硬い泥岩の地層に、30基以上の横穴墓が群集して発見されました。発掘調査では埋葬された人の歯や骨のほか、装飾品や武器が発見されました。

7 飯室山



飯室山には枳形城の出城（見張りを兼ねる）があったといわれています。飯室山広場からはスカイツリーが見え、展望が特に良いときには筑波山も見えます。遠く、広く見渡すことができ、鎌倉幕府の北を守る重要な城であったことが伺えます。

6 枳形山

多摩丘陵の広大で肥沃な武蔵稲毛荘（川崎市・稲城市）を頼朝から安堵（土地所有を承認し保証すること）された稲毛重成は、この地に枳形城を築城したといわれます。令和元年にリニューアルされた舞台づくりの展望台では、360度の景色を楽しめます。今年7月23・24日には「鎌倉殿の重臣 稲毛重成パネル展」が開催されました。



▼ 川崎ふるさとの小径 『ガイドマップ 川崎散歩ゆるり旅』

発行：川崎市 建設緑政局緑政部 みどり・多摩川協働推進課



川崎市では、市域に残存する身近な自然とふれあいながら遺跡・史跡の歴史的資源をめぐるとともに、ふるさとの緑への関心を市民の皆様にも深めていただくために、昭和53年より「川崎ふるさとの小径」のコースの設定をはじめました。

遊歩道ガイドマップは各区役所等で配布しています。川崎市のホームページからもご覧いただくことができます。

